

5 支援活動の学びとその後

支援者のその後について

おかやまコープ 宅配運営グループ統括 **坂本 昌靖**

妹尾センター大野センター長は、訪問先で「岡山でも、地域から信頼される、なくてはならない生協をつくりたい」と強く感じました。その思いは、センターの仲間づくり活動の根幹となっており、センターを越え、全体でも共有されています。被災地への職員のボランティア参加についても、できるだけ機会をつくれるように積極的に関わっています。

江口チームリーダーは、支援先で実績が上がらない中、悩み抜いた末、「フィールドが違うだけで、商品を中心とした仲間づくりに変わりはない」事への気付きがありました。実際に支援先のみやぎ生協では、ストコンを行ったり、商品を購入、試食するなどし、自らの言葉で商品を語れるようになってから成果が残せるようになったと言います。その経験は岡山に帰ってからも活動への確信となり、チームメンバーとの関わりの中でも変化が生まれています。

おかやまコープでは、今年度、秋の仲間づくりキャンペーンで過去最高の加入実績を残し、10年ぶりの目標達成となりました。被災地への支援者、そして、その報告を聴いた者も含め、職員が「生協に加入していただくことで、お役に立てる」と実感したことが意識と行動を変化させ、実績に表れたのでないかと捉えています。

生協仲間づくり支援活動に参加した根元さんのその後

さいたまコープ 杉戸センター長 **高橋 恵子**

～ 根元さんの振り返りレポートより ～

色々な方から色々なことを教わりながら、自分にできることは何か考えながら1ヶ月過ごした。自分の行動は小さなことかも知れませんが この行動が人と人との繋がりを生むと信じて拡大行動をしていました。

帰ってきた当初、「普通に拡大行動できる」ことが幸せでしようがない様子でした。以前より「時間意識」は持っていましたが、ますます時間を大切にしている感じで日々の業務を終えていました。

下期になり営業担当者からチームリーダーになりました。《自分を信じてひたむきに考え行動する》ことは以前と変わりません。少し変わったことと言えば「自分はこう思う」「自分はこうしている」とか「自分は」の言葉が先にくることが減った気がします。

今までの経験上や思い込みなどの先入観を持ってでは、石巻での拡大行動はできなかったのだと思います。

そのことは《わからない。はじめて。》という点では営業担当者からチームリーダーになった今、同じ状況なのかも知れません。しかし、わかったふりをしてしまう、もしくはわかっているつもりで動く人が多い中、ごまかしたりしないで、わからないことは他リーダーに聞きながら、また素直に担当者に聞きながら、その上で「どんな状態なのか」、その上で「どうやってやるか」を考えながらやっています。

現在正規職員7人のチームです。下期から根元リーダーになり2ヶ月経ちました。今までリーダーとメンバーに距離があったチームでした。リーダーとは口をきかなかった担当者が根元リーダーと話をしているのを最近見かけます。

ちょっとだけですが担当者たちの動きが変わってきたのも、根元リーダーの《小さなことにも一生懸命に向き合う》姿勢からなのかな、と思っています。

東日本大震災支援報告

後藤寺支所 支所長
京築支所 支所長

森 健
大居 博之

支援担当者／後藤寺支所 推進担当：森英子、京築支所 推進担当：石丸健太郎

支援に志願した理由

TVニュースを目の当たりにし、衝撃を受けて何か自分にできることをしたいと思っていた時に、支援の募集があり人生の大きな経験になると思いすぐに行くことを決めました。(石丸健太郎談)

メディア以外の実際の東北震災被災を実感することで、今の自分に無いもの、何か得るものがあるような気がして、今後の考え方、生き方の役に立ち、吸収できるものがあると思い支援に志願しました。(森英子談)

支援後の行動（心）の変化

■森支所長より森推進担当へ

支援活動前から組合員ひとり一人に誠実に向き合い、ひとりでも多くの方に生協商品や共済の良さを伝えようと努めていましたが、支援後その意識や行動がさらに高まっているように感じています。現地での訪問活動で被災にあった方、前向きに生活している方との出会い、説明後加入された方からの感謝の言葉をいただいたことなど貴重な体験が財産になったようです。その体験からひとり一人の状況をしっかり理解し、喜ばれるためにどうすればよいのか、またどう伝えればよいのかという想いを大事に向き合っている姿勢を強く感じます。

■大居支所長より石丸推進担当へ

感謝（ありがとう）を述べる全体配信や気づきが確実に増えていますし、全体を見るという大きな視点で物事を感じとる視野も広がっています。

※今でもコープふくしまの仲間づくりのチーフと連絡のやり取りもあるし仲間も増えました。

(石丸談)

支所内での報告

二人とも活動後、すぐに職場で報告の場を作っています。

まずメンバーに伝えたことが「みんなに感謝しています。」という言葉でした。仲間づくりのやり方やシステムがエフコープと支援先と異なっていた感もあり、改めてみんなに支えられていることが実感できたそうです。その後、被災地の現状、前向きに生活している現地の方の様子、心に残った出来事について報告され、森推進担当から『初めて利用を始められた方に福岡へ戻る日に挨拶し、「森さん、これからも生協を続けていきます。」と言って頂いた事が一番心に残った出来事だった』と報告がありました。

聞いているスタッフもふだんの職場会ではあまり見られないほど集中し聞きいっていました。仲間づくり含め、メンバー同士が協力、連携し行動し続ける大切さをスタッフも感じたことと思います。

(森支所長談)

石丸推進担当も報告後、未だに当時の支援の状況を、他メンバーからも聞かれており、皆の意識の中で震災に対する人と人との関わり方などは非常に関心が高いように感じています。(大居支所長談)